

## 平成29年度 香川県立琴平高等学校 学校評価

本校では次の教育方針のもと、本年度の重点目標を掲げ教育活動に取り組んできました。

今年度の教育活動に関して、自己評価、生徒からの授業評価、学校評価アンケート（生徒・3年保護者・教員）を実施しましたのでその結果を報告します。

また、平成30年2月に学校関係者評価委員会を実施し、自己評価、生徒からの授業評価、学校評価アンケートの集計結果を提示し、分析と協議を行った結果、下のような学校関係者評価をいただきました。

### 【教育方針】

心身を鍛え、生涯にわたって学び続ける意欲を養い、地域社会の一員としての自覚と国際的視野を育み、社会の変化に主体的に対応できる心豊かでたくましい人間の育成を目指し、次のような教育方針のもと、家庭や地域との連携を図りつつ、明るく活力に満ちた学校づくりを推進する。

- 1 人間や自然を愛する心を養い、心ゆたかな誠意ある人間の育成に努める。
- 2 自主、自立の精神を養い、心身ともにたくましい熱意あふれる人間の育成に努める。
- 3 広く高い知性を養い、郷土を愛し、社会の発展に貢献する創意に満ちた人間の育成に努める。

### 【本年度の重点目標】

地域社会で活躍するたくましい人材の育成

— 地域で学び、地域で育つ琴高生 —

- ①基礎学力の向上 ②基本的な生活習慣の確立 ③進路意識の高揚 ④地域連携の推進

## ○学校関係者評価

### 【学校評価アンケート・自己評価等について】

- 授業評価を生徒の個別のフォローにどう生かすかが大切である。学力のばらつきの少ない小・中学校では、授業の内容に遅れそうな生徒へのフォローがしっかりできている。そうするためには、教員の支援体制が必要になってくる。組織として動くことが大切である。
- 平成30年度からは生徒からの授業評価アンケートをグラフ化するということが、文章によるまとめも必要ではないか。文章表現だと、教員側がどのように授業を見直すかがわかりやすいと思う。
- 学校評価アンケートの④特別活動と⑦教育相談について、「自分がどうしたいか」という質問形式になっていない。自分のことを問う形が良いのではないか。
- 評価項目として数値目標を立てた方がわかりやすく、取り組みやすいという考えもあるが、数値にこだわると自分で自分の首を絞めることにもつながる。生徒が入れ替わるので、努力が反映されないことがあることも認識しておく必要があるのではないか。

### 【教育活動等について】

- 教育研究部を中心に、アクティブラーニングを取り入れた授業研究が進んでいるという報告を受けたが、さらに研究・実践を進めてほしい。
- 琴平高校は、試験発表中に部活動ごとに試験勉強をしたりしていると聞いた。部活動と勉強がうまくリンクしているのではないか。
- 幼稚園実習に来る生徒の積極性が高まっている。「ねらい」を持ってきてくれている生徒が増えてきているのは良いことだと思う。
- 地域連携が活発に行われていることや、多くのメディアで取り上げられているのを見て、琴平高校の教育活動の充実ぶりがうかがわれる。
- 生徒が自分たちで企画し、自分たちで作る授業や特別活動を奨励したい。
- 琴平高校が以前作った『こんぴらカルタ』は、とても良いものであった。もっと活用したらよいのではないか。

資料 1 自己評価表（校務分掌、学年団）

※1 評価計画は、①=会を開いて話し合う、②=アンケートをとる、③=その他(具体的に記入)

※2 実施状況は、A=「目標達成に向けて順調に取り組んでいる」、B=「目標達成のために部分的な取り組みの見直しが必要である」、C=「目標達成のためには大幅な取り組みの見直しが必要である」の3段階での評価を書く。中間評価は、その時点での評価を書く。 中間評価：9月末。 最終評価：1月末。

分掌	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
教務部	生徒が興味・関心を持って授業に取り組めるようにすることで、夢の実現に向けた真の学力をつけさせる。	主体的で対話的な深い学びや、ICTを活用した授業が展開できるよう、授業に有効なAV機器類の導入やホワイトボード等を整備し、活用を促進する。	①	B	1号館2～4階に50インチのモニターとBD対応のDVDプレイヤーを設置したものの、ホワイトボードの整備はこれからである。	B	まなボード（ホワイトボード）の整備により、協働的な学習を行う際の生徒意見の集約や、要約の効率的な発表に活用できた。	学習環境のさらなる整備のために、まなボードや大型モニターを買い増し、多くの教員が活用できるようにしたい。また、今年度整備したまなボードの利用頻度を上げ、効果的に授業に活用できるような事例を積極的に公開することで、協働的な学習による教育効果を上げたい。
	地域や家庭との連携を深め、生徒と職員が一体となって活気に満ちた地域に愛される学校づくりを推進する。	P T A 総会や異種武道大会等の学校行事を充実させるとともに、保護者や地域住民へ行事への参加を啓発する。	①	B	近隣中学校へ本校部活動のPRを実施したところ、1日体験入学では昨年度の約2割増し(217名)の参加があった。異種武道大会等でも、近隣への呼びかけにより参加者を増やしたい。	B	異種武道大会の案内チラシを、近隣の本屋やコンビニなどに加え、銀行や役場などにも配布することで、一般の参観も可能であることを周知できた。約50名の保護者や地域の方に、参観していただいた。	
教育研究部	授業研究・学力向上の取り組みを充実させる。	研究授業の分析結果を共有する機会を設ける。	①	A	研究授業の実施結果を共有する	B	研究授業後に、授業者と参観者で振り返りができたが、全職員では共有できなかった。	研究授業の実施内容について、分析結果を全職員で共有できるやり方を考える。
	学校図書館を活性化し、読書活動を推進する。	各教科、分掌と連携して図書館利用の促進を図る。	①	A	引き続き活動を継続する	A	授業等での利用も一年を通じてあり、貸出冊数も伸びている。	今年度の取り組みを継続していく。

	学校評価アンケートの結果を取り組みに生かす方策を考える。	各分掌の評価の低かった項目を挙げ、改善方法の検討、目標値設定を行う。	③各分掌に働きかける	B	評価後に各分掌で改善方法を検討する時間を設けるよう働きかける	B	年度途中で検討会をあまり開かなかつた分掌があった。	各分掌で数値設定できる目標を設定し、取り組みの進捗を「可視化」する。
生徒指導部	校則を理解させる。正しい制服の着用ができるように服装指導を徹底することにより、規範意識の育成を図る。	正しい制服の着用を意識させる。学年では、学年主任、学年生活指導を中心とした指導体制作りを行い、学年で偏りがない指導を行う。	①	B	2学期に入って多くの学校行事やテレビ局の取材があり、生徒の落ち着きがない。特に2年生女子のスカートの丈が短いので、重点的に指導を行う。	B	2学期の後半、3学期に入り、防寒用のタイツ・ストッキングの着用が始まるとスカート丈が短くなる生徒が多い。正しい制服の着用を含め、指導を行っていく。	1、2、3年共通の服装指導ができるように周知の仕方や方法を実施しなければ、教員が生徒の「なんとなく着崩し」になれてしまっている。(注意が来ていない)全体で取り組むべき。
	校門指導や登校指導、教科指導等を実施することにより、時間を意識することや、基本的な生活習慣を身につけさせる。	時間を守ることの大切さや遅刻させない環境を作るために、校門指導、登校指導を実施する。また教科担任等と連携し、授業を大切にする気持ちを養う。	①	A	一部、常習的に遅刻ギリギリの生徒が気になるものの、遅刻者は少ない。授業中の怠業行為が見受けられるので、共通理解のもと指導を行っていく。	B	指導部が行っている指導でも、常習的に遅刻している生徒に関しては意識改革できていない。指導方法を含め、改善方法を検討していかねばこれ以上の減少は難しいと感じている。	遅刻の指導に関しては、以前の「月カウント」から「学期カウント」に変更できるくらい減少してきた経緯があるが、今後新たな指導方法を考えていかななくてはいけない。
進路指導部	進路情報を有効に活用し、進路意識の高揚を図る。	進路相談会・見学会・講演会等の実施。総合的な学習の時間の充実。	①	B	1・2年次からの体系的な進路学習によって進路意識を高める。	A	進路相談会・見学会等の実施、進路情報の提供をととして、進路意識の高揚を図った。	進路情報を有効に活用し、進路意識の高揚を図る。
	学習意欲を向上させ、基礎学力の定着を図る。	基礎力診断テスト、進路ノートの有効活用。	①	B	継続的实施で、教材が有効に活用されるよう学年団と連携する	B	基礎力診断テストの段階的な導入で、学習意欲の向上を図った。基礎学力の定着にどう結びつけるかが課題。	学習意欲を向上させ、基礎学力の定着を図る。

保健環境部	生涯を通じて健康な生活を送るために、健康について自ら考え実践する力を育てる。	・性教育や薬物乱用教室を実施する。 ・心肺蘇生法・AED講習会を実施する。	①	A	性教育や薬物乱用教室は実施し、生徒の理解もよかった。心肺蘇生法・AED講習会はまだ実施していない。	A	心肺蘇生法・AED講習会は、日本赤十字社香川県支部から講師を招き、分かりやすい講習をしていただいた。	外部の講師を招き、より実践的な取り組みにしたい。
	校内の美化に努める。ゴミの分別と清掃用具の管理と充実を図る。	大掃除の時を利用して、清掃用具の点検を行い修理や交換、補充をさせる。 美化委員を当番制でゴミ集積場の管理及び整備、各行事におけるゴミの収集に当たらせる。	①	B	具体的な取り組みについては計画通り進められているが、ポイ捨てをさせない、ごみの分別等については、全校生徒に意識させる必要がある。	B	取り組みは進んでいるものの、ごみのポイ捨てなどについては、まだまだである。	清掃時だけではなく、普段から美化について意識するような指導をしていく。
教育相談部	生徒の悩みや困り感の早期発見、早期対応を図り、支援していくことで、生徒が学習に集中できる環境を整える。	生徒の多様なニーズに対応する際、保護者の協力や理解が得られるように、学級担任や学年主任との連携やSC、SSWと教育相談部員の連携体制の在り方を工夫する。	①	B	保護者との連携をはかり、必要な場合は医療機関との連携を実施している。今後、内容を支援に生かしていけるように、関係職員のケース会を効果的に実施していく。	B	学級担任と連携をとり、SC、SSWにつなげることができた。生徒の多様なニーズに対応する必要が生じ、保護者・医療機関との連携、校内連携の充実を行った。	入学時に支援希望のなかった発達障害の生徒の問題点に気づくことがあった。担任を初め、校内連携により早期に対応することが必要と思われる。
	生徒の出席状況を把握し、欠席等の原因を解明する。悩み等の解決に尽力し、規則正しい生活が送れるように支援する。	欠席・健康調査や学校生活アンケートを活用し、早期発見、早期対応につとめ、教育相談部内での連携を強化し、多面的な校内支援体制を作る。	①	B	不登校生徒や困り感を抱えている生徒、成績不振の生徒への対応が徐々に来るようになってきた。多面的な校内支援ができるように、関係職員の体制作りをしたい。	B	生徒支援委員会や教育相談部内での話し合いの中で、困り感を抱える生徒の情報を共有し、連携対応につなげることができた。	学校生活の安定のためには、欠席がちな生徒の継続的な見守りが欠かせないので、教育相談部内での連携を強化し、多面的な支援体制を作っていきたい

人権・同和教育部	<p>現職教育の充実等により、教職員の人権問題に関する認識の深化や授業における指導力の向上を図る。また差別やいじめを許さない教職員の姿勢を示すことで、誰もが安心して過ごせる学習環境を整える。</p>	<p>現職教育や人権・同和教育LHRの事前研修等の機会を利用して教職員の人権問題に関する認識の深化や授業における指導力の向上を図る。日々の教育活動の様々な場面において人権尊重の意識向上の徹底をめざす。</p>	①	B	<p>自信をもって自らの思いを生徒に語れるよう、人権・同和教育LHRの事前研修のいっそうの充実を図る。また、教職員の人権問題に関する認識の深化につながるような現職教育のあり方を工夫する。</p>	B	<p>性的マイノリティの当事者を講師に招いて実施した現職教育など、新鮮なアプローチで人権問題について考えることができた。人権・同和教育LHRについても、内容の見直しを行いながら、事前研修の充実を図ることができた。</p>	<p>学校生活のあらゆる場面で、各教職員が人権問題・同和問題に配慮した教育活動を進めていく、という雰囲気、学校全体として醸成したい。また時代の変化を見据えつつ、人権・同和教育LHRの内容等についての見直しも進めたい。</p>
	<p>地域社会や小中学校、また保護者との交流、情報交換を密にし、進路保障のための協力体制をつくる。</p>	<p>定期的に小中学校等との交流・情報交換の場を設けるとともに、地区で開催される保護者懇談会や学校説明会の機会をとらえて地域社会との連携強化をめざす。</p>	①	B	<p>従来の取り組みに加え、地区関係機関や保護者との日常的な情報交換や連携の機会をとれるよう工夫する。</p>	B	<p>定期的に行われる小中学校等との交流・情報交換の機会や地区で開催された高校説明会への参加、人権・同和教育LHRの実施内容等に関する保護者との意見交換などを通し、地域社会や保護者との連携を強化することができた。</p>	<p>従来の取り組みをさらに充実させるとともに、日常的な場面でも、小中学校等との交流や地区関係機関・保護者との情報交換・連携強化をいっそう進展させたい。</p>
特別活動部	<p>特別活動に積極的に参加することを推進し、協調精神や自己肯定力の育成を図る。</p>	<p>生徒会活動・LHR・部活動を通して、生徒が自主的に参加できるようにサポートする。</p>	①②	B	<p>生徒会活動や部活動の活性化のために、1年生の参加を呼びかける。</p>	B	<p>各行事において、生徒が自主的に考えて行動することができつつあり、活動を盛り上げることができた。</p>	<p>仕事を計画的に進め、教員の助言を取り入れながら自主的な活動ができるように促す。</p>

	学校内外の活動を通して、よりよい人間関係を築こうとする態度を育てる。	学校行事や部活動を通して、社会で自立できるような活動を行う。	①②	B	部活動を通して、体力や協調性の育成だけでなく、ボランティア活動にも参加できるように呼びかける。 学校行事について、例年通りではなく、生徒がより活動できるような方法を考える。	B	部活動を通して、協調性や社会性を育成することができている。	部活動の顧問に依存しすぎずに、学校全体で取り組むような活動を考えていく。
広報・渉外部	ホームページの適時的な更新や「琴高通信」の発行により、地域や保護者へ本校の教育活動の発信を行う。	ホームページの行事予定などの内容を定期的に更新する。「琴高通信」20号を編集・発行する。	①	B	琴高通信の臨時号を発行し、80周年記念行事の報告のため20号は3学期に発行することになった。	A	ホームページの内容の更新ができた。琴高通信の発行に向けて編集作業に取り掛かっている。	ホームページの適時的な更新や「琴高通信」の発行により、地域や保護者へ本校の教育活動の発信を引き続き行う。
	地域との連携を密にすることにより、ボランティアや地域行事への参加および質の向上を図る。	琴平高校芸術祭などの計画・実施を行う。地域のさまざまなボランティア活動への参加を行う。	②	B	地域の各種ボランティア行事に昨年に引き続き参加し、今後もそれを続けていく予定である。	A	琴平高校芸術祭、クリーンアップ大作戦等に取り組み地域の各種ボランティア行事に参加できている。	地域との連携を密にし、ボランティアや地域行事への参加および質の向上を図る。

学年団	本年度の重点目標	具体的取り組み	評価計画 ※1	実施状況 (中間評価) ※2	取り組みの見直し	実施状況 (最終評価) ※2	評価の根拠・課題	来年度の重点目標
一年団	学習習慣を確立させ 自学自習の意欲・態度を 培い、基礎学力を定着させる。	定期考査の学習計画を作成する。 漢字・英単語テスト等を地道に根強く指導する。	①	B	成績不良者に対して個別に指導する。その他の生徒には、継続して学習習慣の確立を指導する。	B	各クラスで面談を実施し、成績について指導することができた。 学習習慣については、継続して指導する必要がある。	基礎学力の定着を図るため、継続的な指導を根気強く行っていく。
	基本的な生活習慣を定着させる。	制服を正しく着用させる。 時間を厳守させる。 あいさつ・返事を徹底させる。	①	B	制服の正しい着用の仕方を継続して指導する。 一部の生徒は規範意識に乏しい。個別に指導する。	B	ほとんどの生徒は規律正しい生活を送っている。 服装については継続して指導していく。	生徒指導部との連携を密にし、地道な指導を継続していく。
	コース選択に向けて進路を考えさせる。	進路にあったコースを考え、選択させる。	①	B	進路実現に向けて、コースを決定させていく。	B	進路に合ったコース選択の指導ができていた。	進路にあったコースを考え、選択させる。
二年団	学習習慣を確立させ 自学自習の意欲・態度を培い、基礎学力を定着させる。	①漢字・英単語テストの合格率を95%以上に する。 ②各クラスで面談を実施し、成績について指導する。	①	B	漢字・英単語テストの不合格者への指導を徹底していき、家庭での学習についても引き続き指導する。	B	漢字・英単語テストは1年時84%、2年時平均88%の合格率であった。引き続き不合格者への指導をしていく。各クラスで面談を実施し、成績について指導することができた。	基礎学力の定着を図るため、継続的に指導を行っていく。
	基本的な生活習慣を定着させる。	①制服を正しく着用させる。 ②時間を厳守させる。 ③言葉遣いを正しくさせる。	①	B	大半の生徒は普通に生活できているが、一部の生徒は規範に乏しい。個別に指導していくものとする。	B	落ち着いて学校生活を送れている。さらに規範意識を持たせて、自主的に改善をさせていきたい。	指導を継続していき、基本的な生活習慣を確立させる。

	適切な進路選択が行えるように、進路意識の向上を図る。	①進路指導部と連携して情報を提供する。 ②面談・指導を行い、進路意識の向上を図る。	①	B	全体への情報の提供と個別の面接による指導を続ける。	B	具体的な進路選択を決定している生徒も多くなった。保護者と連絡を密にし、できるだけ早く考えさせた。	生徒の進路が実現できるように、進路指導部と協力しながら指導を続ける。
三年団	進路を実現する。  (進路決定は、100%を目標とする。)	・保護者と連絡を取り、進学・就職の選択を明確にする。 ・最適な目標を決定するため、生徒との面談を再々実施する。 ・具体的な目的を意識し、積極的に行動する。	①	B	連絡が不足したため、保護者が疑念を持たれた件があった。保護者との連絡・調整により丁寧に対応していく必要がある。	B	・進路指導部との連携をより密にし、迅速な対応をこころがけた。 ・必要に応じて三者懇談を実施した。	・常に保護者と連絡を取りながら、計画的に進路を実現させる。
	受験に適応した学習を行う。	・進路・目標を自覚した具体的な学習をさせる。	①	A	・進路を自覚させ、個別指導による学習指導を効果的に行うことができた。	A	・進路を自覚させ、個別指導による学習指導を効果的に行うことができた。	・目標を明確にさせ、継続した学習ができるようにする。
	善き社会人・大学生となるための、基本的な生活習慣を確立させる。	・社会人となるため、ルールを身につけさせる。 (問題行動は0件) ・挨拶の励行、清掃、服装の整備等を意識させる。	①	A	・担任を中心に、職員が連携し、生徒の指導を行うことができた。	A	・担任を中心に、職員が連携し、生徒の指導を行うことができた。	・善き社会人、大学生となるための、基本的な生活習慣を確立させる。

### 【国語科】

#### 1 今年度の目標

主体性や考える力を育てることを目指し、授業改善に取り組む。

#### 2 アンケート結果

- ・授業に対する興味関心は多くの者が持っている。授業内容が「分からない」「難しい」という生徒は、1年時の「古典」教材では多いが、学年が上がるにつれ少なくなっており、「訳を理解したい」という前向きな意見もある。
- ・予習復習は「あまりしていない」「していない」が60%～80%いる。一方「努力に応じた結果は出ている」と答える生徒が大半であるが、「努力不足」と答えた生徒も30%いる。
- ・自分の学習に対する反省として「漢字を覚えたい」「ワークを丁寧にする」が多いが、それ以外に「もっとたくさん本を読みたい」「文章を読み慣れていきたい」などもあった。また、「どうしたら点数が上がるか」「現代文の勉強はどのようなことをすればよいか」と質問されることもある。
- ・板書の量が多く「字を大きくしてほしい」「余裕を持って授業を終わってほしい」という意見があった。

#### 3 今後の取り組み

- ・家庭学習の習慣をつけさせる。そのために、関心の度合いや能力に応じた家庭学習のやり方を、授業内で示していく。
- ・漢字やワーク提出だけでない読書や文章表現につながる課題を示す。
- ・目標達成のための授業改善を共有できるよう、話し合う機会を学期に2回ずつは持つ。

### 【地歴・公民科】

#### 1 アンケート結果から

授業に対して、ほとんどの生徒が、興味・関心を持って取り組めており、内容も、分かりやすい、分かっている、と感じている者が多数であった。一部難しい・授業の進度が速いと回答した者もいたが、大部分の生徒は難易度・進度ともにちょうどよいと感じており、教材等も生徒たちにとって興味のもてるもの、分かりやすいもの、に工夫されているので、現状の授業に関しては「今のままでよい」と回答した者が、大多数だった。

#### 2 今年度の目標

社会常識・社会事象を自主的に知ろうとする習慣を身につけさせる。社会の動きについて自分なりに考えたり、考えを文章化したりする姿勢を育ませる。

#### 3 具体的な取り組み

新聞やテレビのニュース番組等を積極的かつ分かりやすく授業で取り上げ、生徒の興味関心を高めるとともに、考查問題等にも反映させることで社会常識・社会事象に関する知識の定着を図る。また調べる・考える・表現するということに挑戦させ、生徒の問題意識の深化をめざす。

#### 4 これまでの成果と課題

グループ作業を通して考えを深めさせたり、冒頭に授業のQを設定して何を考えるかを明確化したりと、生徒が自ら調べたり考えたりできるよう工夫している。また時事問題や気になるニュース等を授業でとり上げたり、新聞等のコピーを教材化したりしている。視聴覚教材を授業中視聴させている科目も多いが、見せて終わりではなく、必ずメモや感想を書かせ、生徒たちなりの考えをまとめさせるようにしており、評価の対象ともしている。そしてこれらの学習活動は、定期考查問題にも反映させるよう工夫してお

り、その場限りの活動にならないよう配慮している。このような取り組みを通し、生徒たちは、知識の獲得にとどまらず、自らの得たものを踏まえ、これからどう行動すべきか、自分の人生をどうしていくかを考え始めるようになりつつある。今後さらに授業内容と時事問題等をどのように関連づけていくか、その展開方法等に創意工夫を重ねていくとともに、自ら問題を設定し、考え、表現するというところへ生徒を進ませるための取り組みを考えていきたい。

## 【数学科】

### 1 生徒の状況

- ・ 予習、復習については、「いつもしている」「時々している」と答えた生徒の割合は、それぞれ、8%（文理19%）、16%（文理20%）であった。
- ・ 教員の実感には「落ち着いた授業態度で、学習内容を理解しようという意欲のある生徒が多い」、「前時までの学習内容の定着が不十分」、「知識を関連付けて考えたり、試行錯誤しながら根気強く取り組んだりすることが苦手」「なんとなく分かったというレベルで留まっている生徒が多い」等がある。

### 2 取組と成果

- ・ 「前時までの学習内容の定着が不十分」であるという課題に対しては、担当教員毎の指導方法で、小テストや確認・課題プリントを実施した。その結果、小テストに向けて授業前にノートを開いている姿が見られるようになった。また、課題プリントで復習に取り組む生徒が増えたことで、「きちんと復習すれば分かるようになった」という声も聞こえてくるようになり、前時の学習内容の理解に基づいて授業を展開できるようになってきたクラスもある。
- ・ 「知識を関連付けて考えたり、試行錯誤しながら根気強く考えたりすることが苦手」であるという課題に対しては、授業時間内に、適切に問題演習の時間を確保し、生徒に、問題を解ききることで達成感を持たせると共に、自ら考える姿勢を身につけさせようと考えた。さらに、できるだけ思考をつなげていけるように、演習中にヒントを出すなど自ら考えるきっかけを与えた。「やってみるとできた」という単純な喜びが、学習意欲の向上につながった生徒も見られた。
- ・ 1年生では、教科書や傍用問題集の問題だけでなく、参考書（チャート）の問題まで解くように指示しているクラスもあり、定期考査前に積極的に取り組んでいる生徒も見られる。

### 3 今後の課題

- ① 学習意欲を高め、生徒が主体的に授業に取り組めるようにさせる。
- ② 予習・復習等の家庭学習の習慣を身につけさせ、基本的な学力の向上を図る。

### 4 課題解決のための取り組み

- ① 「分かる楽しさ」が実感できるような、分かりやすい授業をする。
  - ・ 内容を精選して教える。
  - ・ 少数・習熟度別授業のよさを活かし、机間巡視を大切にして、個別の質問に丁寧に応えると共に、生徒のつまずきを見つけて、全体の理解につなげる。
  - ・ 授業プリントを準備したり、ノートの取り方を指導したりすることにより、生徒の学習活動を活発にするとともに、生徒の理解を深める。
  - ・ 「発問」を工夫して、「発問」と生徒の「回答」をもとに授業を展開し、生徒の集中力を高める。
  - ・ 導入として、前時までの「基礎・基本事項の確認」や「公式の確認」等を行いこれまでの授業内容の理解の上に立って、授業を展開する。
  - ・ 説明に終始するのではなく、問題演習の時間を確保して、生徒に「できた」という達成感を与える。

## ②基本的な知識の積み重ねを図る。

- ・ 小単元毎に確認テストや小テストで学習内容の定着を図る。
- ・ 学力を定着させるために、宿題を定期的に出して、その提出も評価する。
- ・ 授業の中で「基礎・基本事項」や「公式」を繰り返し確認することにより学習内容の定着を図る。
- ・ 断片的な知識だけに終わらせず一連の流れの中で重要な項目を確認し全体的な構成を考えさせる。
- ・ 意欲の高い生徒に対しては個別指導を行う。

## 【理科】

### 1 現状

・ 授業に対する興味が「ある」「かなりある」という生徒が、66%、授業の内容が「よく分かる」「分かる」という生徒が71%いる。

- ・ 授業の復習をしている生徒は少なく、「あまりしていない」「していない」という生徒が大半(78%)を占めている。
- ・ 自分の学習と成績については、56%の生徒が「努力した結果よい成績を収めている」「努力に応じた結果が出ている」と答えている。「努力しているが結果に表れない」生徒が15%、「努力不足のため成績が不振である」生徒が27%程度いる。
- ・ 34%の生徒が授業内容について「難しい」と答えており、授業進度が「進み方が早い」と答えた生徒が1割いる。
- ・ 授業に対する工夫は、「いつもされている」「時々されている」と答えた生徒は95%いる。
- ・ 授業に対する要望では、「今のままでよい」と答えた生徒は8割である。「もっとゆっくり進んでほしい」「もっと丁寧に説明して欲しい」と答えた生徒がともに15%程度いる。

### 2 改善点

- ・ 興味がない、授業があまり分からないと答えている生徒は1、2年生に多い。1年生は中学校の授業内容に比べて、より専門的で複雑になったことで、苦手意識から自主学習の定着につながっていない様子である。実験などを取り入れ、理科に関する興味や関心を持たせ、生徒の理解力に応じて、教科書の内容を精選するなど分かる楽しさを実感できるように工夫していきたい。2年生も、複雑な計算を必要とする「物理基礎」を全員履修しているため、理解力に差があり、授業に興味を持たず、わからない、むずかしいと感じている生徒がいると思われる。実験を行うとともに、問題を精選して、易しい問題なども入れながら解ける楽しさを分からせていきたい。
- ・ 理科は復習をすることで、授業内容の定着が図られる。復習をしていない者が多いので、さらに、単元ごとに小テストを実施するなど工夫して、復習を促せたい。また、家庭学習を十分にしていない生徒が多いことも問題点であり、宿題を課すなど、家庭学習にもつなげていきたい。
- ・ 理解力に差があり、問題演習の時も、できる時間に差がある。問題の程度をいろいろ組み合わせるなどして、机間巡視を行い、丁寧に説明して欲しい生徒に対応していく。
- ・ 生徒のモチベーションが低く、ある程度理解している生徒でも、授業を受身で聞いている生徒が多い。生徒同士で議論させたり、意見交換をするなど、授業の工夫をすることで、積極的な授業の取り組みを目指したい。

## 【保健体育科】

### 「体育」

- ・授業の「内容」「進度」「工夫」に関しては、ほとんどの生徒が現状に満足している。
- ・「体づくり運動」に関しては、学年により「楽しい」「やや楽しい」と感じたことに差が生じている。実施時期や方法をさらに検討し、意欲の向上を図りたい。

### 「保健」

- ・授業「内容」「進度」「工夫」に関して、大半の生徒が「ちょうど良い」「工夫されている」と捉えており、現状に満足している。
- ・ほとんどの生徒が授業に対する「興味」を持っており「内容」も分かっている。「興味・関心」が高いので、学習ノートや視聴覚教材やDVD等の積極的活用等の工夫を図り、生徒の理解を深めたい。

### 「選択体育Ⅰ、選択体育Ⅱ」

- ・授業の「内容」「進度」「工夫」に関しては、ほとんどの生徒が現状に満足している。「知識・技能」を高めるにはどうしていきべきか、授業形態も含め、より良い指導法とは何か模索していく。
- ・生徒自ら安心・安全に留意して活動ができるよう、安全に対する意識の徹底を図る。

## 【芸術：音楽・美術・書道】

### 1 生徒の現状と課題

#### (音楽)

- ・授業への興味・関心は高く、積極的に取り組んでいる生徒が多い。
- ・内容が難しいと感じる生徒が数名いる。また、進度も早いというものが数名いた。

#### (美術)

- ・この授業に関心がある、自分から積極的に参加していると回答した生徒が多く、実際意欲的に取り組んでいる生徒が多い。
- ・作品の進み方に対し、授業は「わかりやすい」との意見が多いが、作業スピードに関しては「もう少し急いで作品をつくる」といった生徒が多い。

#### (書道)

- ・授業の内容、速度について「ちょうどよい」と答えた生徒が多く、「もっと上手になりたい。」という前向きな感想が多数あった。
- ・技術面だけでなく、「集中して授業に取り組む」という精神面を課題にしている生徒もいた。

### 2. 改善策

#### (音楽)

- ・内容について、板書等を用いて、わかりやすく、ていねいな説明を心がける。また、器楽では、全体指導だけでなく、一人一人チェックする時間を取っていく。
- ・進度については、個々に経験が異なるので、それぞれにあった課題が選択できるようにする。

#### (美術)

- ・授業の残り時間を具体的に周知することで、今日（本時）何をすべきかを意識させている。
- ・作品は丁寧に扱わせる。自分の作品やクラスメートの作品を大切にできる環境を整え、作品の重要性を教える。

(書道)

- ・授業に対する要望としてほとんどの生徒が「今のままでよい」と回答しているが「進み方が遅い」と回答している者もいた。作業が遅れがちな生徒への個別指導を改善し、全体の進行を遅らせないような工夫を考えたい。
- ・技術だけでなく集中力を身につかせるために、緊張感を持って制作に取り組むような機会を増やしたい。

## 【英語科】

### 1 生徒の状況

#### ◎ 1年生

7割の生徒が興味を持って授業に取り組んでいる。内容・進度は丁度よいと考えている生徒が大半である。ALTとの授業は楽しんでゲームなどの活動に参加しているが、指示や説明の英語が分かりにくいと考える生徒もいる。

#### ◎ 2年生

コミュニケーション英語Ⅱについては、半数近い生徒が「興味がない」「あまりない」と答えている。学習内容や進度は丁度よいと考えているものが多い。「努力に応じた結果が出ている」「努力不足のため成績不振である」の回答に二分されており、予習復習はしていないということで、努力していないからこの程度の成績、と考えている生徒が多いと思われる。

英語表現Ⅱについては「難しい」と考える生徒の割合が例年より増えている。予習復習はできていない。テストの結果については努力不足と感じている生徒が多く、もっと家庭学習時間を増やしたいと考えている生徒が多い。

#### ◎ 3年生

コミュニケーション英語Ⅲについては興味を持って取り組み、内容はわかるという生徒が7割程度である。予習復習をする生徒は3割で、努力不足、努力に応じた成果を感じている。

英語表現Ⅱについては、おおむね興味を持っているが、授業内容を「あまり分からない」と答える生徒が半数近くいる。

異文化理解、英語会話など、選択科目については非常に高い興味を持ち、内容に対する理解・満足度も高い。

### 2 問題点

- (1) 生徒の英語力、興味・関心の度合いに差が大きい。
- (2) 興味が「あまりない」「ない」とした生徒が各クラス3割程度いる。
- (3) 家庭学習が行われていない生徒が多数である。
- (4) 能力は高いが英語を使った活動に消極的なクラスと、活動には積極的だが能力の低い生徒の多いクラスがある。

### 3 学力向上に向けて

- (1) ペアワークを通し、相手に伝え、伝わる喜びを体験させることにより学習意欲の工場を図る
- (2) 音読などの繰り返しの練習を徹底し、単語、文の定着を図る
- (3) 小テストの実施(授業中)
- (4) 進学課外の実施の方法の工夫(進路希望・難易度別の夏季課外実施)
- (5) 入試や英検に向けての個人指導、面接練習、添削の実施

## 【家庭科】

### 1 生徒の現状と課題

- ・実際に体験する授業への関心が高く、積極的に取り組んでいる生徒が多い。
- ・授業で学習した内容を実生活で活かしている生徒が少ないため、授業内容をいかに自分のものとし、定着させていくかが課題となっている。
- ・学年が上がるにつれ、授業内容に興味関心を持ち、目的意識を持って授業に参加できており、もっと努力したいと考える生徒が増えている。

### 2 課題を解決するための方策

- 講義形式の授業において五感に訴える資料等を準備し、より実感のわく授業を心がける。
- 小テストを実施し、学習の定着を図る。
- 授業内容を実生活に活かす具体的方法を提示し、生徒の気づきを促す。
- できあがった作品を友だち同士で相互評価したり、展示したりする等、評価してもらえる場を増やし、達成感を味わえるよう工夫する。

## 【商業・情報科】

### 1 生徒の現状と課題

#### 【アンケートより】

- ・情報処理教室を利用する情報系の科目では、興味・関心を持って実習に取り組んでいる。教室における座学中心の科目においては集中力を欠く生徒も見受けられる。⇒ 演習のやり方
- ・家庭学習(予習・復習)については、多くの生徒が不足している現状がある。⇒ 授業で勝負
- ・授業に対する要望は「今のままでよい」と答える生徒が多数派であるが、「もっと質問の時間を取ってほしい、考える時間を取ってほしい。」という意見もある。⇒ アクティブ・ラーニング

#### 【教員より】

- ・就職に対しての意識の高い生徒は積極的に、検定習得にも取り組んでいるが、目的意識のない情報実務コースの生徒は、学習意欲も低く、検定も習得できていない。⇒ コース選択説明
- ・コンピュータを活用した授業(特に1年の全員履修)では、得意としている生徒と不得意の生徒の情報リテラシー格差が大きいため、同時並行実技の難しさを感じている。⇒ 発表の準備

### 2 目標・改善点

- ・簿記や電卓の検定取得に向けて、基本的な計算や記帳方法を確実に押さえるとともに、演習問題・模擬問題を繰り返し、繰り返し、粘り強く解かせていく姿勢を身につけさせること。
- ・地域連携の授業をもっと増やしていきたい。SNSやスマートフォンの活用についても、授業の中で積極的に、効果的に取り入れていく必要性が出てきていることを痛感している。
- ・検定前の課外や補習などを実施し、検定の合格率を上げたい。部活動との関係を考えたい。
- ・「社会と情報」(1年次)の授業時から粘り強く計測・文書作成練習を続けていくことで、ビジネス文書実務検定の上位級合格者(受験者)をさらに増やしていきたい。
- ・コミュニケーション能力を高めていくうえでの、プレゼンテーションの授業を増やしていきたい。自ら自分を売り込んでいくことが社会からも求められている。これからの時代は起業家としての生きる道や働き方についてもしっかりと考えさせたい

		おおいにそう 思う・だいた いそう思う (%)	平均値 (4段階)
1	個人面接は、自分の適性や生活を見つめ、進路について考えるきっかけとなった。	93.3	3.1
2	進路見学会や進路相談会では、進路情報を得たり進路について考えたりすることができた。	96.9	3.3
3	体育祭や文化祭などの学校行事では、自発的に活動できた。	98.0	3.4
4	部活動や課外などで、放課後の時間を有意義に使うことができた。	90.8	3.2
5	ボランティア活動に参加する機会が多くあり、自主的に活動できる環境が整っている。	91.3	3.1
6	差別やいじめを許さない学習環境で、安心して過ごすことができた。	95.9	3.4
7	悩みがあれば、いつでも相談でき、アドバイスや支援を受けられるので心強い。	93.8	3.1
8	定期考査、課題テスト、漢字・英単語テストに向けて、よく頑張った。	93.8	3.2
9	授業や課外での先生方の学習指導は、熱心で適切であった。	95.9	3.3
10	琴平高校での高校生活に満足している。	92.4	3.2



アンケートで2または1を選択した理由

- 2 自分の希望しているところがなかったの。
- 3 自分から動かずに、人任せになってしまうの。
- 4 部活に入っていないので。課外はないの。
- 6 いじめの一步手前の出来事があったの。
- 個性が津用人がおり、あまり安心とは言えない。

- 7 相談したけど変わらなかったの。
- 8 携帯を使う時間が多すぎるから。
- 定期考査の直前しか勉強しないの。
- ただ板書するだけの授業の先生がいるから。
- 10 授業が楽しく思えないから。

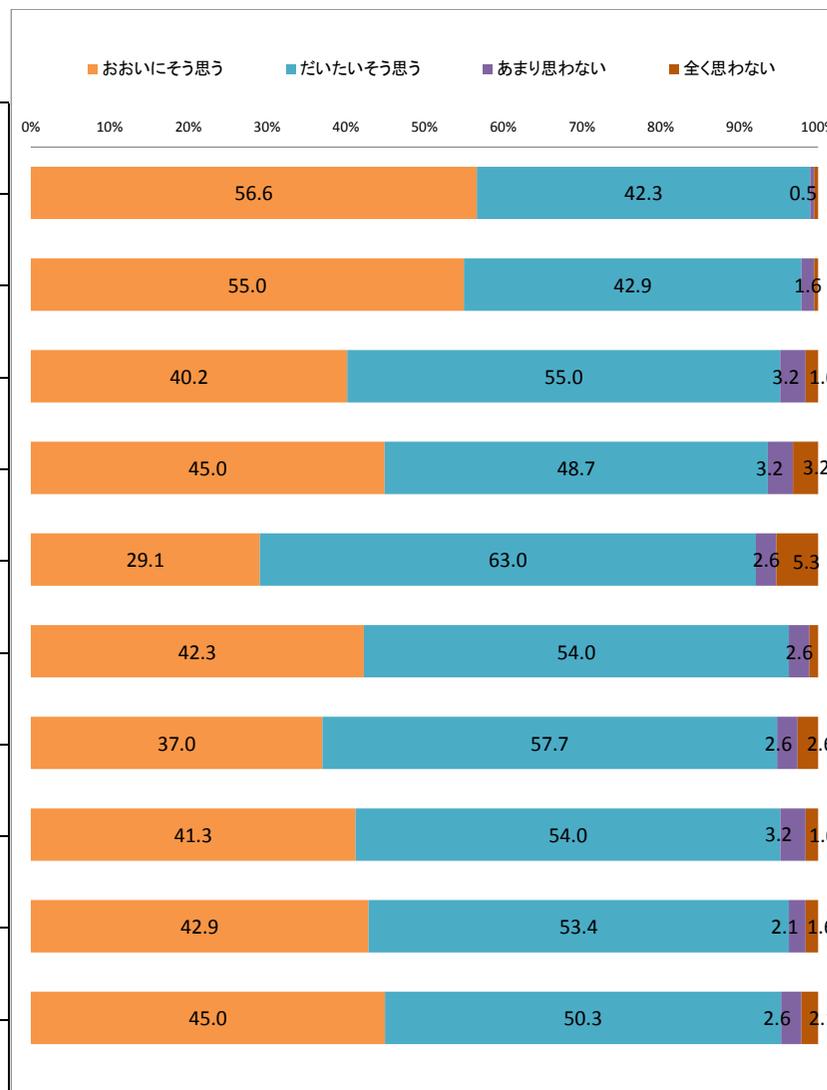
		おおいに 思う・だいた いそう思う (%)	平均値 (4段階)	
1	自分の適性或進路目標にふさわしいコースを選択できた。	95.2	3.4	
2	個人面接、進路見学会、進路相談会などを通じて、進路について考えることができた。	98.0	3.2	
3	体育祭や文化祭などの学校行事では、自発的に活動できた。	98.1	3.3	
4	部活動や課外などで、放課後の時間を有意義に使うことができた。	96.1	3.4	
5	ボランティア活動に参加する機会が多くあり、自主的に活動できる環境が整っている。	86.4	3.0	
6	差別やいじめを許さない学習環境で、安心して過ごすことができた。	98.5	3.5	
7	悩みがあれば、いつでも相談でき、アドバイスや支援を受けられるので心強い。	94.7	3.3	
8	定期考査、課題テスト、漢字・英単語テストに向けて、よく頑張った。	93.1	3.3	
9	授業や課外での先生方の学習指導は、熱心で適切であった。	98.1	3.3	
10	琴平高校での高校生活に満足している。	97.1	3.3	

アンケートで2または1を選択した理由

- 1 途中で勉強についていけなくなったから。  
就職向きのコースの方が良かったと思い始めているから。
- 3 言われたことしかできなかったから。
- 4 部活が途中で苦痛になってしまったので。  
部活をやっていないから。(部活を途中でやめたから)
- 5 一度もボランティアに行っていないので。  
部活で忙しくて、行きたくてもいけなかったから。

- 6 授業がうるさい時があり、落ち着けなかった。  
いじめではないが、人をからかっている感じがあった。
- 8 課題テストの勉強をほとんどしなかったから。  
定期考査の直前しか勉強しなかったから。
- 10 授業が面白くないので。

		おおいにそう思う・ だいたいそう思う(%)	平均値 (4段階)
1	自分の適性或進路目標にふさわしいコースを選択できた。	98.9	3.6
2	個人面接、進路見学会や進路相談会などを通じて、進路について考えることができた。	97.9	3.5
3	体育祭や文化祭などの学校行事では、自発的に活動できた。	95.2	3.3
4	部活動や課外などで、放課後の時間を有意義に使うことができた。	93.7	3.4
5	ボランティア活動に参加する機会が多くあり、自主的に活動できる環境が整っている。	92.1	3.2
6	差別やいじめを許さない学習環境で、安心して過ごすことができた。	96.3	3.4
7	悩みがあれば、いつでも相談でき、アドバイスや支援を受けられるので心強い。	94.7	3.3
8	定期考査、課題テスト、漢字・英単語テストに向けて、よく頑張った。	95.3	3.3
9	授業や課外での先生方の学習指導は、熱心で適切であった。	96.3	3.4
10	琴平高校での高校生活に満足している。	95.3	3.4



アンケートで2または1を選択した理由

- 4 部活動に入っていなかった。・課外はないクラスだったので。
- 5 参加したかったものもあったが、部活で行けなかった。
- 7 相談しにくい感じだったので。
- 8 不合格が多かった。

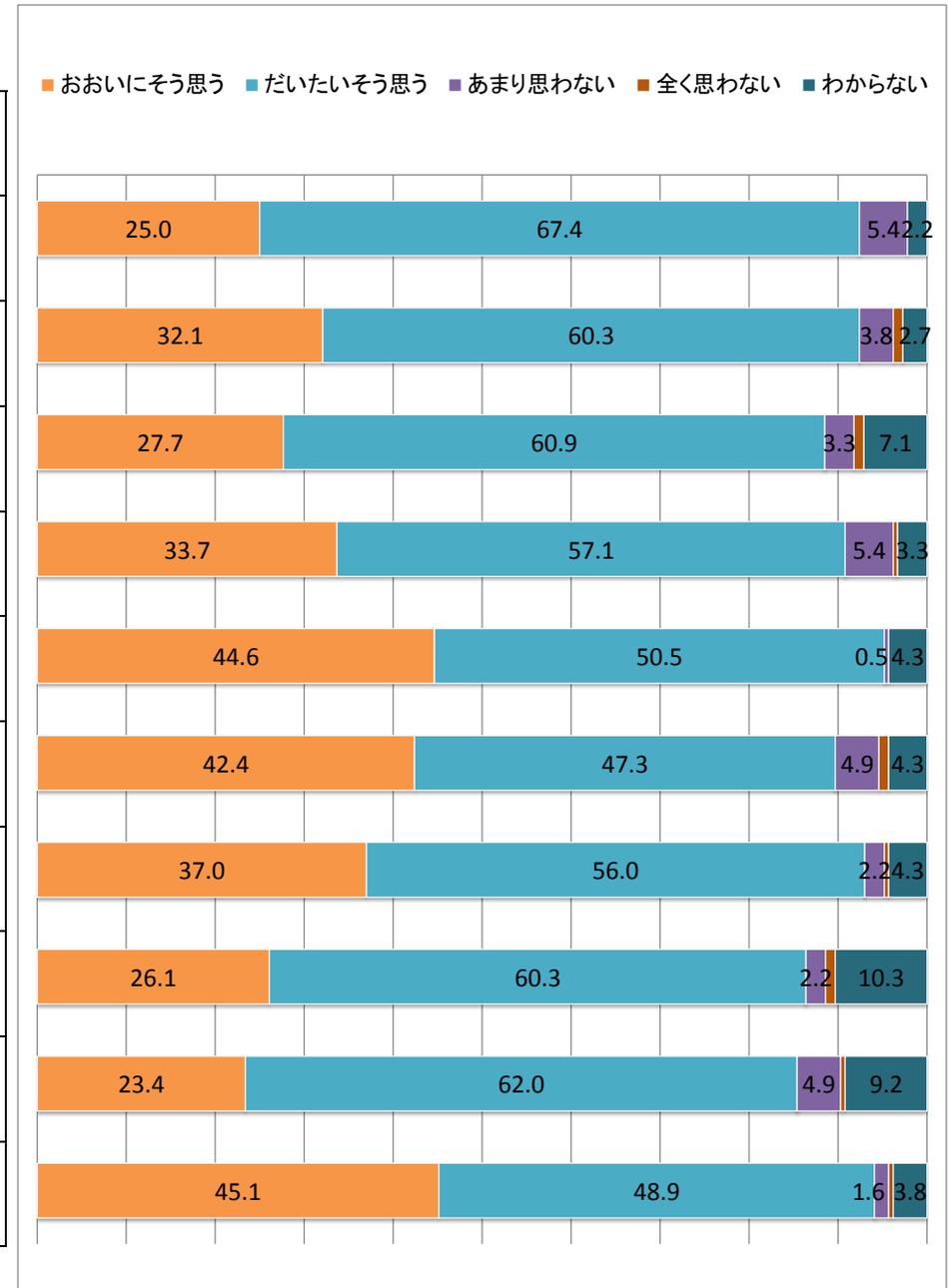
高校生活を振り返り、学校や後輩に伝えたいこと

- ・行事が多くて、楽しい高校生活でした。
- ・今やるべきことをやるのが大事。 ・小テストや課題テストもしっかりやる。
- ・悩んだときは先生に相談すべき。 ・勉強して損することはない！
- ・琴高で教えてもらったことは将来必ず役に立つ。

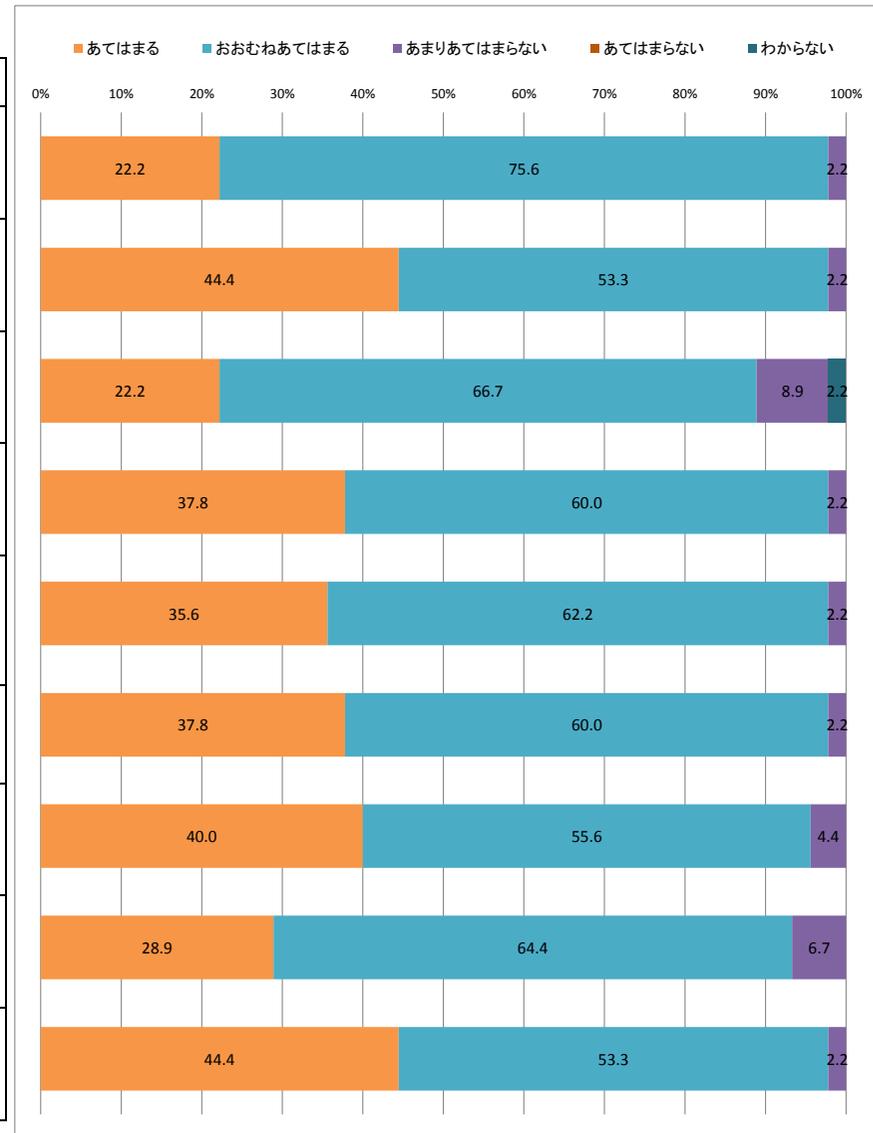
平成29年度 学校評価アンケート(3年生保護者対象)

平成30年1月実施 回答者数(184名)

		おおいに 思う・だいた いと思う (%)	平均値 (4段階)
1	生活面の指導により、きちんとした生活態度やマナーが身についた。	92.4	3.2
2	コース選択や進路決定に向けて、適切な指導やアドバイスを受けた。	92.4	3.3
3	進路見学会や進路相談会は、進路について考える上で有意義であった。	88.6	3.2
4	定期考査、課題テスト、漢字・英単語テストに向けて、よく頑張った。	90.8	3.3
5	体育祭や文化祭などの学校行事に、積極的に参加した。	95.1	3.5
6	部活動やボランティア活動など、自主的な活動を通じて心身ともに成長した。	89.7	3.4
7	差別やいじめを許さない環境で、安心して過ごすことができた。	93.0	3.4
8	悩みがあれば、いつでも相談でき、アドバイスや支援を受けられる。	86.4	3.2
9	学校からの文書やホームページを通じて、琴平高校のことをよく知ることができた。	85.4	3.2
10	琴平高校での高校生活に満足している。	94.0	3.4



			あてはまる・おおむねあてはまる(%)	平均値(4段階)
1	教務	①多様な進路希望に対応した教育課程を編成し、適切な学習指導を推進する。 ②行事、業務のマニュアル化と、業務のスリム化、円滑化、効率化を図る。	97.8	3.2
2	生徒指導	①服装指導を徹底し、規範意識を育成する。 ②校門指導、登校指導を通して基本的な生活習慣を身につけさせる。	97.7	3.4
3	進路指導	①進路情報を有効に活用し、進路意識の高揚を図る。 ②学習意欲を向上させ、基礎学力の定着を図る。	88.9	3.1
4	特別活動	①特別活動への積極的参加を推進し、協調精神、自己肯定力の育成を図る。 ②学校内外の活動を通して、よりよい人間関係を築こうとする態度を育てる。	97.8	3.4
5	人権・同和教育	①現職教育を充実させ、教職員の人権問題に関する認識の深化と指導力の向上を図り、差別やいじめを許さない教職員の姿勢により、誰もが安心して過ごせる学習環境を整える。 ②地域社会や小中学校等との交流・情報交換を密にし、進路保障のための協力体制をつくる。	97.8	3.4
6	保健環境	生涯を通じて健康な生活を送るために、講演・講習会等を通して、自ら考え実践する力を育てる。	97.8	3.4
7	教育相談	①生徒の悩みや困り感の早期発見、早期対応を図り、支援していくことで、生徒が学習に集中できる環境を整える。 ②生徒の出席状況を把握し、欠席等の原因を解明する。悩み等の解決に尽力し、規則正しい生活が送れるように支援する。	95.6	3.4
8	教育研究	①授業研究、学力向上の取り組みの改善に向けて共通理解を図る。 ②学校図書館を活性化し、読書活動を推進する。 ③学校評価アンケートの項目を見直し、取り組みの改善に繋げる。	93.3	3.2
9	広報・渉外	①「琴高通信」の発行、ホームページの適時更新により、地域や保護者へ、本校の教育活動を発信する。 ②地域連携を密にし、ボランティアや地域行事への参加と質の向上を図る。 ③PTA活動、同窓会活動を通して、保護者や同窓会との連携を密にする。	97.7	3.4



アンケートで2または1を選択した理由

(※0「わからない」については理由の記述はない)

- 1①・真の学力をつけさせることはできていないと思います。
- 2①・指導してもすぐに改善しない生徒がいたため。
- 3②・学習意欲向上のための策があまりできていない。特に1年～3年を通してのストーリーが見えない。  
・意欲の向上は難しいが、無理やりにも結果を出す指導をしてもよいのではないかと。
- 4①行事をこなすだけで、その行事の目的・意義が生徒と教員に明確になっていない感がある。
- 6②校内をきれいにしようと思って行動できる生徒を増やしたい。

7①困っている生徒はもちろん気になるが、支援する時間が足りない。

8①学力向上の方策はむずかしい。

その他意見

・各分掌とも、具体的な数値目標がないため、評価が難しい。今後は、「〇〇を△△する」などの年間の具体的な目標を決めてほしい。